

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

製品名	アンチコリット P 802		
SDS番号	400300-003		
作成日	2023/03/15		
改訂日	2023/05/29		
供給者の会社情報	会社名	: フックスジャパン株式会社	
	住所	: 東京都港区虎ノ門5-12-1, 虎ノ門ワイコービル5F	
	電話番号	: 03-3436-8303	
製造業者の会社情報	会社名	: フックスジャパン株式会社	
	住所	: 三重県伊賀市大内字三郎谷408-3	
	電話番号	: 0595-20-1114	
推奨用途	防錆剤(カタログを参照して下さい)		

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

##### 物理化学的危険性

引火性液体 : 区分3

##### 健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分4(混合物中の97%の成分は急性毒性が未知である)

皮膚腐食性/刺激性 : 区分2

皮膚感作性 : 区分1

発がん性 : 区分2

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分3(気道刺激性、麻酔作用)

誤えん有害性 : 区分1

上記に記載されていないGHS分類項目は、『分類できない』、又は『区分に該当しない』のいずれかに該当する。

#### GHSラベル要素

##### 絵表示



##### 注意喚起語

: 危険

##### 危険有害性情報

: 引火性液体及び蒸気 (H226)

: 飲み込むと有害 (H302)

: 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ (H304)

: 皮膚刺激 (H315)

: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ (H317)

: 呼吸器への刺激のおそれ、又は、眠気又はめまいのおそれ (H335+H336)

注意書き

: 発がんのおそれの疑い(H351)

- 安全対策 : 使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)
- : 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
- : 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。(P210)
- : 容器を密閉しておくこと。(P233)
- : 容器を接地すること/アースをとること。(P240)
- : 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/製造者/供給者又は所管官庁が指定する機器を使用すること。(P241)
- : 火花を発生させない工具を使用すること。(P242)
- : 静電気放電に対する予防措置を講ずること。(P243)
- : 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。(P261)
- : 取扱後は製造業者、供給者又は所管官庁が指定する取扱い後に洗浄する体の部分をよく洗うこと。(P264)
- : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
- : 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)
- : 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272)
- : 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)
- 応急措置 : 特別な処置が必要である。(P321)
- : 口をすすぐこと。(P330)
- : 無理に吐かせないこと。(P331)
- : 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。(P301+P310)
- : 飲み込んだ場合: 気分が悪い時は医師に連絡すること。(P301+P312)
- : 皮膚に付着した場合: 多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。(P302+P352)
- : 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)
- : 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
- : ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。(P308+P313)
- : 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。(P332+P313)
- : 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。(P333+P313)
- : 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364)
- : 火災の場合: 消火するために製造者/供給者又は所管官庁が指定する適当な手段を使用すること。(P370+P378)
- 保管 : 施錠して保管すること。(P405)
- : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)

: 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。  
(P403+P235)

廃棄 : 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

成分名	含有率(%)	CAS RN®	官報公示整理番号		化管法
			化審法	安衛法	
灯油	80-90	8008-20-6	対象外	非開示	対象外
エチレングリコールモノブチルエーテル	1-5	111-76-2	2-407, 2-2424, 7-97	非開示	第一種594
1, 2, 4-トリメチルベンゼン	1-5	95-63-6	3-7, 3-3427	非開示	第一種691
鉱油	1-5	非開示	対象外	非開示	対象外
キシレン	1-5	1330-20-7	3-3, 3-60	非開示	第一種80

その他の成分は、企業秘密のため記載しない。

化管法欄に化管法物質番号がある場合、物質名及び含有量は「15. 適用法令」に記載している。

### 4. 応急措置

吸入した場合	: 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 : 直ちに医師の診断、手当てを受けること。 : 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	: 水で数分間注意深く洗うこと。 : 水と石鹼で洗うこと。 : 直ちに医師に連絡すること。 : 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合	: 水で数分間注意深く洗うこと。 : 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 : 眼の刺激が持続する場合は、医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	: 口をすすぐこと。 : 直ちに医師の診断、手当てを受けること。 : 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	: 情報なし
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	: 情報なし
医師に対する特別な注意事項	: 情報なし

### 5. 火災時の措置

適切な消火剤	: 泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	: 棒状放水

火災時の特有の危険有害性	: 引火性の高い液体および蒸気。 : 消火後再び発火するおそれがある。 : 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。 : 消火水は汚染を引き起こすおそれがある。
特有の消火方法	: 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 : 容器が熱に晒されているときは、移動しない。 : 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	: 適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	: 全ての着火源を取り除く。  : 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 : 関係者以外の立入りを禁止する。 : 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	: 環境に放出しないこと。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	: 不活性材料（例えば、乾燥砂又は土等）で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。 : 危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	: 情報なし

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱注意事項	: 消防法の規制に従う。 : 粉じん、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 : 炎や高温のものから遠ざけること。 : 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。 : 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 : 取扱い後はよく手を洗うこと。 : 飲み込みを避けること。 : 眼に入れないこと。 : 皮膚との接触を避けること。 : 環境への放出を避けること。
接触回避	: 情報なし
衛生対策	: 情報なし

保管

- 安全な保管条件 : 消防法の規制に従う。  
 : 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。  
 : 施錠して保管すること。  
 : 容器を密閉して乾燥した涼しい場所にて保管すること。
- 安全な容器包装材料 : 情報なし

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度／許容濃度

化学名	管理濃度 (ppm)	管理濃度 (mg/m <sup>3</sup> )	産業衛生学会 (ppm)	ACGIH: TWA (ppm)
エチレングリ コールモノブ チルエーテル	25	-	20	-
1, 2, 4-トリメ チルベンゼン	-	-	25	-
キシレン	50	-	50	-

- 設備対策 : 取扱い場所の近くに、眼及び身体の洗浄設備の設置を推奨  
 蒸気、ミスト、煙等が発生する場合、発生源の密閉化や排気装置の設  
 置を推奨  
 屋内で使用する場合、適切な局所排気装置又は換気設備の設置を推奨  
 局所排気装置又は換気設備を設置する場合は、必要に応じて防爆型を  
 用いること。

保護具

- 呼吸用保護具 : 適切な呼吸器保護具を着用すること。  
 手の保護具 : 適切な保護手袋を着用すること。  
 眼、顔面の保護具 : 適切な眼の保護具を着用すること。  
 皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態 : 液体  
 色 : 褐色  
 臭い : 灯油臭  
 融点／凝固点 : 情報なし  
 沸点又は初留点及び沸騰範囲 : 情報なし  
 可燃性 : 情報なし  
 爆発下限界及び爆発上限界／可  
 燃限界 : 0.6-7vol%  
 引火点 : 43°C (C. O. C.)  
 自然発火点 : 情報なし  
 分解温度 : 情報なし  
 pH : 情報なし (水に不溶のため pHを示さない)  
 動粘性率 : 1.3mm<sup>2</sup>/s (40°C)  
 溶解度 : 水に不溶

n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	: 情報なし
蒸気圧	: 情報なし
密度及び／又は相対密度	: 0.8g/cm <sup>3</sup> (15°C)
相対ガス密度	: 情報なし
粒子特性	: 情報なし
その他のデータ	: 情報なし

## 1 0. 安定性及び反応性

反応性	: 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
化学的安定性	: 情報なし
危険有害反応可能性	: 情報なし
避けるべき条件	: 情報なし
混触危険物質	: 情報なし
危険有害な分解生成物	: 情報なし

## 1 1. 有害性情報

### 急性毒性（経口）

エチレングリコールモノブチルエーテル : 区分4 ラットのLD50値として、470-3,000 mg/kg の範囲内で10件の報告がある。ガイダンスの改訂により、最も多くのデータ（4件）（470 mg/kg、917 mg/kg（環境省リスク評価第6巻（2008））、約1,500 mg/kg（NTP TR484（2000））、1,746 mg/kg（SIDS（1997））、NICNAS（1996））が該当する区分4とした。なお、2件が区分外（国連分類基準の区分5）、4件が区分4又は区分5に該当する。

### 急性毒性（経皮）

情報なし

### 急性毒性（吸入：気体）

情報なし

### 急性毒性（吸入：蒸気）

情報なし

### 急性毒性（吸入：粉塵ミスト）

情報なし

皮膚腐食性／刺激性

- 灯油 : 区分2 EHC (20, 1982)、ACGIH (7th, 2001)、PATTY (4th, 1994) およびIARC (45, 1989) のヒトで皮膚への接触により刺激性が認められたとの記述から、区分2とした。
- キシレン : 区分2 本物質をウサギの皮膚に適用した結果 (適用時間は不明)、紅斑、浮腫、壊死がみられたとの報告 (NITE有害性評価書 (2008)) のほかに、ウサギ、マウス及びモルモットに本物質を適用した結果 (適用時間は不明)、軽度から強度の刺激がみられた (ATSDR (2007)) との報告があるが、いずれも回復性についての記載はない。以上より区分2とした。
- 1, 2, 4-トリメチルベンゼン : 区分2 【分類根拠】  
(1)、(2)より、区分2とした。なお、新たな知見に基づき、分類結果を変更した。  
【根拠データ】  
(1) 本物質は眼、皮膚、気道を刺激し、中枢神経系に影響を与えることがあり、液体を飲み込むと肺に吸い込んで化学性肺炎を起こすことがある。吸入や経口摂取すると錯乱や咳、眩暈、嗜眠、頭痛、咽頭痛、嘔吐を生じ、皮膚に付くと発赤や皮膚の乾燥、眼に入ると発赤や痛みを生じる (MOE 初期評価 (2009))。  
(2) EU CLPではSkin Irrit. 2に分類されている。
- エチレングリコールモノブチルエーテル : 区分2 ウサギを用いた皮膚刺激性試験の報告が複数あり、OECD TG 404相当の2試験では「刺激性あり」 (SIDS (2006)、ECETOC TR95 (2005)、NICNAS (1996))、所見として重度の持続的な紅斑及び重度の浮腫がみられたが7日後には回復したと報告されている (SIDS (2006))。他の4時間適用をおこなった皮膚刺激性試験では「軽度の刺激性あり」、あるいは「刺激性あり」と報告されている (SIDS (2006)、ECETOC TR95 (2005)、EU-RAR (2006))。また、ウサギに24時間、半閉塞条件下で適用した結果、適用直後に軽度から中等度の紅斑 (5/6匹)、軽度の浮腫 (4/6匹) がみられ、適用48時間後には軽度から中等度の紅斑 (4/6匹)、軽度の浮腫 (3/6匹) がみられた (EU-RAR (2006))。本試験における一次刺激スコアは1.5であった。また、モルモットを用いた皮膚刺激性試験においても「刺激性あり」との結果がある (SIDS (2006)、EU-RAR (2006))。以上の結果から区分2とした。なお、本物質はEU DSD分類で「R38」、EU CLP分類で「H315 Skin Irrit. 2」に分類されている。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

情報なし

呼吸器感作性

情報なし

皮膚感作性

情報なし

生殖細胞変異原性

情報なし

発がん性

灯油

- : 区分2 【特記】 IARC 45 (1989) でJet fuel (kerosene, 8008-20-6) およびDistillate (light) fuel oilsがグループ3に分類されているが、ACGIH (2001) ではkerosene/Jet fuelsがA3に分類されていることから、最近の評価であるACGIHの分類に基づき、区分2とした。

生殖毒性／授乳への影響

情報なし

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

灯油

：区分3（気道刺激性、麻酔作用）ACGIH（7th, 2001）、PATTY（4th, 1994）およびIARC 45（1989）のヒト暴露例で中枢神経抑制やめまいなどが認められたとの記述、ならびにACGIH（7th, 2001）のマウスを用いた吸入暴露試験で気道刺激性が認められたとの記述から、麻酔作用および気道刺激性を示すと考え、区分3とした。

エチレングリコールモノブチルエーテル

：区分1（肝臓、血液系、呼吸器系、腎臓）、区分3（麻酔作用）ヒトにおいては、吸入経路及び経口経路で気道の刺激性、嘔吐、眩暈、嗜眠、昏睡、呼吸困難、散瞳、代謝性アシドーシス、ヘモグロビン低下、血尿、経口摂取で、低カリウム血症、血清クレアチニン濃度の上昇、シュウ酸エステル結晶の尿中排泄量の著しい増加、低酸素血症、肺水腫、成人呼吸窮迫症候群（ARDS）、血小板減少を伴う非溶血性低色素性貧血が報告されている（EU-RAR（2006）、SIDS（2007）、環境省リスク評価第6巻（2008）、ACGIH（7th, 2003））。ラットの450 ppmの吸入ばく露で、浅速呼吸、協調運動の喪失、泌尿生殖器周囲の赤色化、腎臓の肥大及び脱色、膀胱の赤色液（SIDS（2007））、486 ppmで重度のヘモグロビン尿、呼吸困難、肺、腎臓、肝臓、脾臓の変化（具体的な記載なし）（ACGIH（7th, 2003））、475 ppmで血尿、協調運動不良、マウスの吸入ばく露では、560 ppm以上で、呼吸困難、重度のヘモグロビン尿、脾臓の濾胞での貪食像及び静脈鬱血、限局性壊死、リンパ過形成、間質性腎炎、気管支肺炎（EU-RAR（2006））が見られた。経口ばく露では、ラットの1,120-1,420 mg/kgで不活発、衰弱、昏睡、肺の出血、腎臓の重度の鬱血、ヘモグロビン尿、血尿、斑状肝、マウスの1,519-2,005 mg/kgで活動低下、努力呼吸、呼吸困難、無食欲、振戦、高用量で血尿、死亡動物で胃腸の出血（EU-RAR（2006））の報告がある。経皮適用では、ウサギの72-225 mg/kgで衰弱、低体温、ヘモグロビン尿、昏睡、呼吸不全、腎傷害、肺の変化（詳細記載なし）、肝臓の鬱血、間葉系の反応を伴う壊死巣、不定脂肪変性、脾臓の鬱血、ヘモグロビン血症性ネフローゼを伴う腎臓肥大、壊死を伴う皮膚病変（EU-RAR（2006））の報告がある。なお、これらの所見は、区分1に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、区分1（血液系、呼吸器、肝臓、腎臓）、区分3（麻酔作用）とした。

1,2,4-トリメチルベンゼン

：区分3（気道刺激性、麻酔作用）【分類根拠】  
（1）～（5）より、本物質を含む異性体混合物では区分3（気道刺激性、麻酔作用）とした。

【根拠データ】

（1）マウスに本物質蒸気を5,000～9,000 ppm（24.6～44.2 mg/L。区分に該当しない範囲）でばく露した結果、中枢神経系抑制を生じたとの報告がある（ACGIH（2001））。

（2）ラットを用いた単回吸入ばく露試験（4時間）において、ロータロッド試験の成績及びホットプレート試験による痛覚刺激閾値の50%低下濃度（EC50）はそれぞれ954 ppm（4.68 mg/L、区分2の範囲）及び1,155 ppm（5.67 mg/L、区分に該当しない範囲）であったとの報告がある（US AEGL（2012）、EPA Tox Review（2016））。

（3）マウスを用いた単回吸入ばく露試験（2時間）において、8,100 ppm（4時間換算値：79.5 mg/L。区分に該当しない範囲）で側臥位、8,100～9,100 ppm（4時間換算値：79.5～89.4 mg/L、区分に該当しない範囲）で（正向）反射の消失がみられたとの報告がある（US AEGL（2012））。

（4）本物質は眼、皮膚、気道を刺激し、中枢神経系に影響を与えることがある。吸入や経口摂取すると錯乱や咳、眩暈、嗜眠、頭痛、咽頭痛、嘔吐を生じる（MOE 初期評価（2009））。

（5）本物質は、眼、鼻、呼吸器系に刺激性を有するとの報告がある（ACGIH（2001））。

【参考データ等】

（6）ボランティアに対して、本物質及び異性体を吸入ばく露した実験では、2時間または4時間ばく露では25 ppm、8時間ばく露では30 ppmで刺激影響も中枢神経症状もみられなかったとの報告がある（US AEGL（2012）、Patty（2012））。



キシレン

: 区分1(肝臓、呼吸器系、腎臓、中枢神経系)、区分3(麻酔作用) ヒトについては事故例や職業ばく露等による吸入、経口経路の複数のデータがある。吸入ばく露では、気道刺激、頭痛、嘔吐、めまい、昏睡、麻酔作用、協調運動失調、中枢神経系障害、反応低下、疲労感、興奮、錯乱、振戦、死亡例では呼吸困難、意識混濁、記憶障害、重度の呼吸器傷害(肺うっ血、肺胞出血及び肺浮腫)、肝傷害(肝臓の腫大を伴ううっ血及び小葉中心性の肝細胞の空胞化)、腎傷害、脳の神経細胞損傷がみられ、同事例での生存者においても、四肢のチアノーゼ、肝臓傷害及び重度の腎傷害、記憶喪失の症状がみられたとの報告がある。経口ばく露では、昏睡、急性肺水腫、肝臓の損傷、吐血、肺のうっ血、浮腫、中枢性の呼吸抑制が原因で死亡の報告がある(NITE有害性評価書(2008)、ATSDR(2007)、環境省リスク評価第1巻(2002)、ACGIH(7th, 2001)、EHC 190(1997)、DFGOT vol.15(2001)、ECETOC JACC(1986))。実験動物では、ラットの1300 ppm吸入ばく露で協調運動失調、ラットの6,000 mg/kg経口投与で鈍麻、知覚麻痺、昏睡など中枢神経毒性の報告があるほか、用量等ばく露条件不明であるが、ラット、マウス等で麻酔作用、衰弱、後肢運動減少、円背位姿勢、刺激過敏性、振戦、衰弱、努力呼吸、呼吸数低下、筋肉痙攣、視覚及び聴覚の障害、肺の浮腫、肺の出血・炎症、肝臓相対重量増加など肝毒性を示唆する所見(NITE有害性評価書(2008)、ATSDR(2007))がある。また、急性ばく露による動物への影響は、神経系、肺、肝臓である(CEPA(1993))との記載、ラット、マウスで、経口、吸入、経皮の急毒症状は中枢神経系抑制である(SIAP(2003)、ATSDR(2007))との記載もある。以上より、本物質は麻酔作用があるほか、中枢神経系、呼吸器、肝臓、腎臓に影響を与えるため、区分1(中枢神経系、呼吸器、肝臓、腎臓)、区分3(麻酔作用)とした。

(なお、この分類結果は、キシレン異性体個別のデータではなく、キシレン混合物(Xylenes, 組成不明のキシレンを含む)を用いたデータである。異性体単独のデータ

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

情報なし

誤えん有害性

灯油

: 区分1 ACGIH(7th, 2001) およびEHC 20(1982)にヒトで誤嚥により化学性肺炎をおこすとの記述があることから、区分1とした。

キシレン

: 区分1 炭化水素であり、動粘性率は混合物のため基になる数値が得られず求められないが、o-, m-, 及びp-異性体の各動粘性率計算値(25°C)は各々0.86、0.67、及び0.70 mm<sup>2</sup>/s(HSDB(Access on December 2014)中の粘性率と密度の数値より算出)とほぼ同様の低値を示すことから、混合物の動粘性率も各異性体の値と大きく異なることはないと推定される。よって区分1に分類した。

1, 2, 4-トリメチルベンゼン

: 区分1 【分類根拠】  
(1)~(4)より、区分1とした。なお(2)より、動粘性率は本物質の異性体である1, 3, 5-トリメチルベンゼンの値から、ガイダンス値の20.5 mm<sup>2</sup>/sより低値になると推定し、分類根拠に採用した。

【根拠データ】

- (1) 本物質は炭化水素化合物である。
- (2) 1, 3, 5-トリメチルベンゼンの20°C及び50°Cでの動粘性率は0.843 mm<sup>2</sup>/s及び0.630 mm<sup>2</sup>/sである(GESTIS(2021))。
- (3) トリメチルベンゼン液体を肺に滴下すると接触部位に化学性肺炎を生じたとの報告がある(ACGIH(2001))。
- (4) 本物質液体を飲み込むと肺への吸引により化学性肺炎を生じるおそれがあるとの報告がある(PubChem(Accessed Aug. 2021)、ICSC(2002))。

## 1 2. 環境影響情報

水生環境有害性 短期（急性）

情報なし

水生環境有害性 長期（慢性）

情報なし

オゾン層有害性

情報なし

生態毒性・魚毒性 : 情報なし

生態毒性・無脊椎動物毒性 : 情報なし

生態毒性・藻類毒性 : 情報なし

残留性・分解性 : 情報なし

生体蓄積性 : 情報なし

土壤中の移動性 : 情報なし

## 1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従い廃棄すること。  
: 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。  
: 焼却処理をする場合には、引火性物質を含むので注意して行う。

汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後、廃棄物処理法及び関連法規ならびに地方自治体の基準に従い処理する。

## 1 4. 輸送上の注意

国連番号 : 1993

品名（国連輸送名） : その他の引火性液体（他の危険性を有しないもの）

国連分類 : クラス3 引火性液体

容器等級 : III

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策 : 情報なし

国内規制

陸上輸送 : 消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。

海上輸送 : 船舶安全法に定められている運送方法に従う。

航空輸送 : 航空法に定められている運送方法に従う。

## 1 5. 適用法令

消防法 : 第四類 引火性液体 第二石油類 非水溶性 危険等級III

化学物質把握管理促進法 : 第一種 エチレングリコールモノブチルエーテル 3.0%

: 第一種 トリメチルベンゼン 1.4%

: 第一種 キシレン 1.1%

毒物及び劇物取締法 : 非該当

労働安全衛生法	: 第57条 名称表示物質(灯油) : 第57条 名称表示物質(エチレングリコールモノブチルエーテル) : 第57条 名称表示物質(1, 2, 4-トリメチルベンゼン) : 第57条 名称表示物質(鉱油) : 第57条 名称表示物質(キシレン) : 第57条の2 通知対象物(灯油) : 第57条の2 通知対象物(エチレングリコールモノブチルエーテル) : 第57条の2 通知対象物(1, 2, 4-トリメチルベンゼン) : 第57条の2 通知対象物(鉱油) : 第57条の2 通知対象物(キシレン) : 危険物: 引火性の物 該当
高圧ガス保安法	: 非該当

法規制については、現時点での原料購入先、又は製造元からの情報をもとに判断している。  
今後新たな知見や情報が判明した場合、上記の情報について変更が生じる可能性がある。

## 16. その他の情報

### 訓練方法

このSDS を参照すること。

### 参考文献等

安全衛生情報センター 「GHS対応モデルラベル・モデルMSDS情報」

自社製品測定データ、社内情報

独立行政法人 製品評価技術基盤機構(nite) 「GHS関連情報」

日本規格協会(JIS) JISZ7253:2019 「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」

### 記載内容の取扱い

この「安全データシート」は、当社の製品を適正にご使用頂くために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の使用を対象としている。  
全ての資料や文献を調査したわけではないため情報の漏れや、新しい知見の発見や従来の説の訂正により内容に変更が生じることがある。

ここに記載された内容は当社所有の情報によるものであるが、情報の完全さを保証するものではない。  
又、法令の改正及び新しい知見に基づき改訂されることがある。

また、現場責任者は取扱いについて十分に現場作業の方へ教育を行うこと。

重要な決定事項にご利用される場合は、出典等を良く検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めする。

記載内容のうち、成分及び含有量、物理化学的性質などの値は、品質保証値ではない。  
ここに記載された内容は情報提供であって、いかなる保証をするものではない。